
ライダーメモリ大実践会特別番外編 魔弾戦士トリロジー

川口高史

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ライダーメモリ大実践会特別番外編 魔弾戦士トリロジー

【Zコード】

Z9998P

【作者名】

川口高史

【あらすじ】

作者が生み出したオリジナルの魔弾戦士を、実戦を通して披露しよう、という作品です。

Episode Blue 剣士の兄は青き槍士

作者

「さあ、ついに始まつたぜ魔弾戦士トロロジーー。」

剣汰

「まずは、青の魔弾戦士だな。」

作者

「では、変身者、カモンー。」

雷斗

「よつやく出番だな。」

剣汰

「…サブタイでわかつた奴、いくらかいるだろ? な。」

作者

「つか、読まれてるかどつかすらわからんし。」

剣汰

「いや最低でも一人はいるだろ。」

雷斗

「…とらあえず、変身していいか?」

作者

「どらんどらん。」

雷斗

「よし…こべー。
シコウコウソンウー。」

雷斗の右手首に装備されていたブレスレットが光り、「ゴッドゲキリュウケン」の柄が長く伸びた姿をした槍型の魔弾龍、「ショウリュウ」になつた。

雷斗

「リュウソウキー、発動！」

ショウリュウソウ

「チーンジ、リュウソウオー！」

雷斗

「昇龍変身！」

雷斗は、リュウソウキーと同じ白と青の魔弾戦士、リュウソウオーに変身した。

リュウソウオー

「昇龍の、青き魔弾槍士…リュウソウオー…ライジン…！」

剣汰

「…で、雷斗の相手は？」

作者

「お前に決まつてんじゃん。」

剣汰

「…だらうと思つた…」

「ゴッドゲキリュウケン！」「ゴッドリュウケンキー、発動！」

ゴッドゲキリュウケン

「チーンジ、ゴッドリュウケンドー！」

剣汰

「撃龍変身！」

剣汰は、お馴染みのゴッドリュウケンドーに変身した。

「ゴッドラリュウケンドー

「撃龍の青き、白銀の魔弾剣士…ゴッドラリュウケンドー…ライジン

！」

リュウソンウオー

「さあ…いくぞ！剣汰！！」

「ゴッドラリュウケンドー

「…望むところだ。」

リュウソンウオー？ゴッドラリュウケンドー

「はああああああああああああ…」

ショウリュウソンウとゴッドラゲキリュウケンがぶつかり合い、火花を散らす。

リュウソンウオーは巧みな槍捌きでゴッドラリュウケンドーを攻めるが、ゴッドラリュウケンドーもゴッドラゲキリュウケンと盾でそれを防ぎ、隙を見て斬りかかる。

しかしリュウソンウオーはそれを避け、ショウリュウソンウで突きを繰り出す。

ゴッドラリュウケンドーはそれを間一髪で避け、リュウソンウオーから距離を取つた。

ゴッドラリュウケンドー

「魔弾斬り！」

そして、ファイナルキー無しで魔弾斬りを放つた。

作者

「説明しよう、剣汰は長年ゴッドラリュウケンドーとして戦いつづけた結果、ファイナルキー無しでも魔弾斬りや龍王魔弾斬りを撃てるようになったのだ。」

もちろん、ファイナルキー有りの時より、威力は結構下がってるが。」

リュウソウオー
「くつ！」

リュウソウオーは、何とか魔弾斬りを斬り払った。

リュウソウオー
「やはり、剣汰は強いな…わかりきつたことだが。」

ショウリュウソウ

「雷斗、モードチェンジだ！」

リュウソウオー

「ああ！まずは…ライジングキー、発動！」

ショウリュウソウ

「チエンジ、ライジングリュウソウオー！」

リュウソウオー

「電撃武装！」

リュウソウオーを電気が包み、ライジングリュウソウオーに変身した。

ライジングリュウソウオー

「ライジングリュウソウオー！ライジン！！」

ゴッドリュウケンドー

「なら…ブリザードキー、発動！」

ゴッドゲキリュウケン

「チエンジ、ブリザードリュウケンドー！」

ゴッドリュウケンドー

「超氷結武装！」

「ゴッヂドリュウケンダー」を冷氣が包み、ブリザードコウケンダーに変身した。

ブリザードリュウケンダー

「ブリザードリュウケンダー、ライジン！！」

ライジングリュウソンウォー

「つて、何で弱点属性なんだよ！」

ブリザードリュウケンダー

「…ハンデだ。」

ライジングリュウソンウォー

「おかしいだるー！」

普通俺に付くものだろそれー！」

ホントこういう時に限ってボケるなお前はーー！」

ブリザードリュウケンダー

「…知るか。いくぞ。」

ライジングリュウソンウォー

「知れええええええええーー！」

電撃をまとったショウリュウソンウォーと、冷氣をまとったゴッヂドゲキリュウケンがぶつかり合つ。

ライジングリュウソンウォー

「くつ…やはり…弱点はきつこな…」

ブリザードリュウケンダー

「だらうな。

それくらい腕で補つてみる。」

ライジングリュウソンウォー

「言わねずとも！

はああああああああああーー！」

ライジングリュウソウオーはブリザードリュウケンダーを押し飛ばし、ショウリュウソウから電撃を放つ。

ブリザードリュウケンダー

「くつ……」

ブリザードリュウケンダーは何とかしのぎ、ゴッドゲキリュウケンから冷氣を放つ。

ライジングリュウソウオー

「寒つ……？」

ブリザードリュウケンダー

「もうつた……！」

ライジングリュウソウオー

「やせるかつ……！」

ブリザードリュウケンダーはゴッドゲキリュウケンを振り下ろすが、ライジングリュウソウオーな何とか受け止め、受け流し、距離を取つた。

ライジングリュウソウオー

「ファイナルキー、発動！」

ショウリュウソウ

「ファイナルクラッシュ！」

ブリザードリュウケンダー

「ファイナルキー、発動！」

ゴッドゲキリュウケン

「ファイナルクラッシュ！」

ライジングリュウソウオー

「ショウリュウソウ、電撃突き！！」

ブリザードリュウケンドー

「ゴッドゲキリュウケン、爆氷斬り！！」

両者の必殺技が衝突し、爆発した。

ライジングリュウソウオー？ブリザードリュウケンドー

「「くつ……！」」

ブリザードリュウケンドー

「……互角か……」

ライジングリュウソウオー

「なら……フリーズキー、発動！」

ショウリュウソウ

「チエンジ、フリーズリュウソウオー！」

ライジングリュウソウオー

「冷凍武装！」

ライジングリュウソウオーを冷気が包み、フリーズリュウソウオーに変身した。

フリーズリュウソウオー

「フリーズリュウソウオー、ライジン！！」

ブリザードリュウケンドー

「……バーニングキー、発動！」

ゴッドゲキリュウケン

「チエンジ、バーニングリュウケンドー！」

ブリザードリュウケンドー

「超火炎武装！」

ブリザードリュウケンドーを炎が包み、バーニングリュウケンドー

に変身した。

バーニングリュウケンドー

「バーニングリュウケンドー、ライジン！！！」

フリーズリュウソウオー

「やつぱりか！！」

明らかに不利だろ俺！！」

バーニングリュウケンドー

「しようがないだろ、お前先手に回ってるんだから。
しかも、作者が何か考えてのことらしいし。」

フリーズリュウソウオー

「…まあいい、やるしかないか！」

フリーズリュウソウオーは冷氣をまとったショウリュウソウで攻撃し、バーニングリュウケンドーはそれを避けて、炎をまとったゴッドゲキリュウケンで斬りかかる。

フリーズリュウソウオーはそれを受け流し、バーニングリュウケンドーを斬りつけた。

バーニングリュウケンドーの斬られた場所が一瞬凍つたが、すぐに溶けた。

フリーズリュウソウオー

「ようやく当たったな…！」

バーニングリュウケンドー

「…流石にやるな…」

火炎斬り！」

フリーズリュウソウオー

「なつ…！？」

うわあああああっ！」

バーニングリュウケンドーが不意打ちで火炎斬りを放ち、フリーズリュウソウオーはそれを食らってしまう。

フリーズリュウソウオー

「くつ…油断したか…は見せかけだ！」

フリーズリュウソウオーはすかさず突きを繰り出し、バーニングリュウケンドーに命中した。

バーニングリュウケンドー

「ぐつ…！？」

突かれた場所から広範囲が凍つたが、やはりすぐに溶けた。

フリーズリュウソウオー

「残るモードは一つ…いや、待てよ…

…そうか！作者の考えは、これのことか！」

バーニングリュウケンドー

「何…！？」

フリーズリュウソウオー

「フレイムキー、発動！」

ショウリュウソウ

「チエンジ、フレイムリュウソウオー！」

フリーズリュウソウオー

「灼熱武装！」

フリーズリュウソウオーを炎が包み、フレイムリュウソウオーに変身した。

フレイムリュウソウオー

「フレイムリュウソウオー、ライジン！…」

バーニングリュウケンドー

「…まさか、作者の考へつてのは…」

フレイムリュウソウオー

「俺は炎使いだから、このフレイムが最強モードなんだ！」

そしてこれが、最強モードの証だ！

フュニックスキー、召喚！」

ショウリュウソウ

「フレイムフュニックス！」

フレイムリュウソウオー

「いでの、フレイムフュニックス！」

フレイムリュウソウオーは、炎の不死鳥の獣王、フレイムフュニックスを召喚した。

そして、フレイムフュニックスは変形し、フレイムリュウソウオーの背中に合体した。

FWリュウソウオー

「フレイムウイングリュウソウオー、ライジン！…」

バーニングリュウケンドー

「…なるほど…最終的に最強モード同士がぶつかるようにしてたのか…

なら…ライトニングキー、発動！」

ゴッドゲキリュウケン

「チエンジ、ライトニングリュウケンドー！」

バーニングリュウケンドー

「超雷電武装！」

バーニングリュウケンドーを雷が包み、ライトニングリュウケンドー

ーに変身した。

ライトーングリュウケンダー

「ライトーングリュウケンダー、ライジン……

「ライトーングイーグルキー、召喚!」

ゴッドゲキリュウケン

「ライトーングイーグル!」

ライトーングリュウケンダー

「こどよ、ライトーングイーグル!」

ライトーングリュウケンダーは、雷の鷹の獣王、ライトーングイーグルを召喚した。

そして、ライトーングイーグルは変形し、ライトーングリュウケンダーの背中に命体した。

RWリュウケンダー

「ライトーングウイーングリュウケンダー、ライジン……」

そして、炎と雷の空中戦が始まった。

RWリュウソウオー？ RWリュウケンダー

「「はああああああああ!」」

炎をまとったショウリュウソンウと、雷をまとったゴッドゲキリュウケンが、空中でぶつかり合ひ。

FWリュウソウオー

「やはり、慣れてるな……剣汰……」

RWリュウケンダー

「当然だ……俺はこれで、ゆづか!」を墜としたんだからな……」

FWリュウソウオー

「…だが、俺は負けない…！」

RWリュウケンドー

「どううな…それでこそ俺の兄だ…！」

二人は距離を取り、それぞれのファイナルキーを取り出す。

FWリュウソウオー？RWリュウケンドー

「「ファイナルキー、発動…！」」

ショウリュウソウ？ゴッドゲキリュウケン

「「ファイナルクラッショ！！」」

FWリュウソウオー

「魔弾龍、獣王、槍士…！」

RWリュウケンドー

「魔弾龍、獣王、剣士…！」

FWリュウソウオー？RWリュウケンドー

「「三つの力が今一つになる…三位一体…！」」

FWリュウソウオー

「ショウリュウソウ！灼熱突き…！」

RWリュウケンドー

「ゴッドゲキリュウケン！爆雷斬り…！」

両者の最強必殺技が、空中で衝突、大爆発した。

リュウソウオー

「うわああああああああ…！」

ゴッドリュウケンドー

「ぐつ…！？」

両者ともモードチーンジが解け、墜落し、変身が解けた。

作者

「おーい、大丈夫かー？」

雷斗

「…ああ…なんとか…」

剣汰

「無事だ…」

作者

「よし、二人ともお疲れさん。」

雷斗

「お前といこまで本気でぶつかり合つたの、いつぶつだらうな。」

剣汰

「…さあな。

だが…いい闘いだつた。」

雷斗

「ああ、そうだな！」

作者

「では、Episode Blueはここまで！
Episode Redもお楽しみに！…」

剣汰？雷斗

「死ぬ氣で見ろよ。」

補足

リュウソウオーの獣王

ストライクタイガー

虎の獣王。

リュウケンドーのブレイブレオン同様、誇り高い性格。
変形してタイガートライクとなり、「三位一体魔弾突き」で、リュウソウオーと共に敵に突貫する。

ライジングコング

ゴリラの獣王。

リュウケンドーのファイヤーコングにそっくりな姿をしている。
ライジングキャノンに変形し、雷の砲撃を放つ。

フリーズホール

クジラの獣王。

大きな口から冷凍水流を放つことができる。

フリーズボードに変形し、フリーズリュウソウオーを乗せて低空飛行する。

フレイムフェニックス

不死鳥の獣王。

翼を羽ばたかせることで、火の雨を降らし、攻撃する。

フレイムリュウソウオーと合体してフレイムウイングリュウソウオーとなり、ライトニングウイングリュウケンドーに並ぶ戦闘能力を

發揮する。

Episode Red 幻影の赤き双剣士

作者

「トリロジー第一弾！！」

高史

「今度は赤の魔弾戦士だ！！！」

作者

「では早速、変身者、カモソン！」

浩司

「よろしくお願ひします。」

高史

「多分流れからじてわかつてただうつな、読者。」

作者

「言つな。

じゃ浩司、よろ。」

浩司

「はい…行きます！」

ゲンリュウトウ！

浩司の左腰が光り、刀型の魔弾龍、ゲンリュウトウが現れた。

浩司

「リュウトウキー、発動！」

ゲンリュウトウ

「チヨンジ、リュウトウオー！」

浩司

「幻龍変身！」「

浩司は、白と赤の魔弾戦士、リュウトウオーライジンに変身した。

リュウトウオーラ

「幻龍の、赤き魔弾双剣士…リュウトウオーライジン…！」

高史

「若干剣汰兄ちゃんに被つてね？」

作者

「だから双を付けた。」

高史

「で、浩司兄ちゃんの相手は。」

作者

「お前に決まってるだろ。」

高史

「ですよね。」

「ゴウリュウガン！マグナリュウガンキー、発動！」

ゴウリュウガン

「チョンジ、マグナリュウガンオー！」

高史

「剛龍変身！」

高史は、じゅらもおなじみのマグナリュウガンオーに変身した。

マグナリュウガンオー

「剛龍の赤き、黄金の魔弾銃士…マグナリュウガンオー！ライジン

！」

リュウトウオーラ

「さて…行こうか、高史。」

マグナリュウガノンオー

「望むところ！」

マグナリュウガノンオーは、マダンマグナムをソーデモーデにして、リュウトウオーに向かつていった。

対するリュウトウオーも、ゲンリュウトウを構える。

リュウトウオー

「はあああああつ！」

マグナリュウガノンオー

「でりやああああああああああああああ！」

ゲンリュウトウとマダンマグナムがぶつかり合ひ。

マグナリュウガノンオーは隙をついてゴウリュウガノンでリュウトウオーを撃つが、リュウトウオーはそれをさけてマグナリュウガノンオーに斬りかかる。

マグナリュウガノンオー

「おらつ！」

リュウトウオー

「くつ……！」

雷斗もさうだつたけど、何で僕たちの方が不利になるんですか！？

「そこは腕で補つてこそだらひ。」

リュウトウオー

「雷斗ならまだしも、僕刀は使い慣れてないんですよまだ！」

「それに高史のほうがずっと強いし！」

マグナリュウガノンオー

「喋つとると当たるぞー！」

作者

その言葉通り、マグナリュウガンオーの銃撃がリュウトウオーに命中した。

リュウトウオー

「ぐつ…！？」

マグナリュウガンオー

「はああああああああああああああ！」

すかさずマグナリュウガンオーはリュウトウオーにドロップキックを決め、吹っ飛ばした。

リュウトウオー

「うわああああああああああ！」

マグナリュウガンオー

「ほーーら、言わんこつちやねえ。」

リュウトウオー

「お前なあ…！」

ファイナルキー、発動！

ゲンリュウトウ

「ファイナルクラッシュ！」

マグナリュウガンオー

「ならこつちも…ファイナルキー、発動！」

ゴウリュウガン

「ファイナルブレイク！」

ゲンリュウトウに魔力が集中していき、リュウトウオーはゲンリュウトウを左脇に構えた。

一方のマグナリュウガンオーは、ゴウリュウガンを左手で持ち、一直線にリュウトウオーに狙いを定めた。

作者

説明しよう、高史は左手で銃を持つと、何故かより大きな反動に耐えられるため、片手でドランキヤノンを撃つことができるのだ。

リコウトウホー

「…ケンリーサトウ、幻龍一閃！」

「必中、必殺…」「」キヤノン、ファイアー！」

リュウトウオーは大きく踏み込むと共にゲンリュウトウを右斜め上へ斬り上げ、龍の姿をした斬撃魔法を放った。

法を放つた。

二体の龍は正面衝突し互いに押し合ふ。しかし、斬撃の龍が砲撃の龍を貫き、マグナリュウガンオーに命中した。

2

マグナリュウガンオー

「ブレイクで

マグナリュウガンオー

……思ってなかつたらせよとらん
これでも威力上がつてんだぞ……

リュウトウオー

「残念だつたな。

僕もそんなに甘くない。

マグナリュウガンオー

「ですよね……」

「ゴウリュウガン

「ドランショット！」

「リュウトウオー

「なつー？つわああああああつー？」

マグナリュウガンオーはいつの間にかショットキーを発動しており、
ドランショットでリュウトウオーを撃つた。
そしてすぐさま起き上がり、銃撃と剣撃のコンビネーションでリュ
ウトウオーを攻撃した。

「リュウトウオー

「くつ…」

「マグナリュウガンオー

「不意打ち成功！」

「そろそろ決めるか。

「マグナゴウリュウガン！」

「ゴウリュウガン

「マグナパワー！」

マグナリュウガンオーはゴウリュウガンとマダンマグナムを合体させ、マグナゴウリュウガンにした。

「マグナリュウガンオー

「ファイナルキー、発動！」

「マグナゴウリュウガン

「ファイナルクラッシュ！」

「マグナリュウガンオー

「必中、必殺…マグナドラゴンキヤノン！ファイアー！」

先程よりも強力な砲撃魔法が、リュウトウオーを吹き飛ばした。

リュウトウオー

爆発の煙が晴れると、そこには何も残っていなかつた。

マケナリーハンマー

二二九

「んなわけあるか。」

突然、マグナリュウガンオーは背後から斬られた。

マグナリュウガンオー

卷之三

「背後から二つあります！」

そう言って後ろを振り返ると、そこには誰もいなかつた。

マグナリュウガンオー

リニア・リニアリティ

「やねぐりご両てみや。」

何もないところからリュウトウオーの声がして、今度は正面から斬

マグナリュウガンオー

「ぐあああつ！？」

そ、そこへいるの！？

リュウトウオー

「ああ、アーティアリヤだね。」

すると、マグナリュウガンオーの目の前から、リュウトウオーがうつすらと、そしてだんだんはつきりと姿を表した。

マグナリュウガノオーラ

レポート

「お前がさっきまで相手をしていたのは、凝縮する」とで限りなく
実体に近づけた幻影だ。

代わりに本体である僕は姿を消した、といつわけさ。」

そう言って、リュウトウオーは一本の魔弾キーを見せる。

リュウトウオー

「いや、それせせらぎキー。

幻影を自由自在に創り、操ることができる。

幻龍の名の由来であり、最大の特徴の一つさ。」

回憶

マグナリュウガノオ

リュウトウオー

「今だ…!! ラージュキー、発動！」

ゲンリュウトウ

「ゼラゴン!! ラージュ！」

リュウトウオーが一人に分身し、片方のリュウトウオーは一瞬で消えた。

リュウトウオー（幻影）

「…ブレイクでクラッシュに勝てると思ったのか…？」

（回想終了）

リュウトウオー

「それでもう一つが…これだ。」

そう言つて、リュウトウオーはもう一本の魔弾キーを取り出す。

リュウトウオー

「デュアルソードキー、発動！」

ゲンリュウトウ

「デュアルパワー！」

リュウトウオーはゲンリュウトウを垂直に構え、左に平行移動させ、その後に右へ平行移動させた。

すると、リュウトウオーの目の前を過ぎた瞬間、リュウトウオーの目の前にもう一本のゲンリュウトウが出現した。

そして、リュウトウオーはそのゲンリュウトウを取り、モンハンの双剣の構えをとつた。

リュウトウオー

「これが僕の…リュウトウオーの本当の力！
デュアルソードゲンリュウトウ！…」

マグナリュウガンオー

「双剣来ちゃったああああああああああああああああ…！」

作者

「説明しよう、浩司は元来双剣使いで、双剣を使つと、剣汰や雷斗に及べるほど強くなるのだ！」

リュウトウオー

「勝利フラグ、つてやつかな。」

リュウトウオーは、デュアルソードゲンリュウトウを振りかざし、マグナリュウガンオーに向かつていった。

対するマグナリュウガンオーは、マグナゴウリュウガンを分離させ、ダブルソードモードにして対抗する。

しかし、剣汰や雷斗にまで及べるリュウトウオーの双剣術にかなうはずもなく、あつと言つ間に押されていった。

リュウトウオー

「はあっ！」

マグナリュウガンオー

「ギャー！」

リュウトウオーに×字に斬られ、あえなく吹つ飛ぶマグナリュウガンオー。

すると、リュウトウオーは左のゲンリュウトウを垂直に真上へ投げた。

リュウトウオー

「ファイナルキー、発動！」

ゲンリュウトウ

「ファイナルクラッシュ！」

リュウトウオー

「デュアルソードゲンリュウトウ… 双龍演舞…！」

リュウトウオーが落ちてきたゲンリュウトウをキャッチすると、リュウジンオーの乱撃よりも速い連撃が、マグナリュウガンオーに炸裂した。

マグナリュウガンオー

「ぐあああああああああああ…！」

リュウトウオーを必殺技を喰らって、マグナリュウガンオーはあえなく倒れ、変身が解けた。

リュウトウオー

「…終演。」

作者

「はい、お疲れー」

(ココリュウトウオー、変身解除。)

浩司

「ありがとうございました。」

作者

「高史ー、生きてるー？」

高史

「…ギリギリ。」

作者

「そりゃ良かつた。」

高史

「…浩司兄ちやんに負けたの、初めてかも。」

浩司

「それ以前に、お前と本氣で闘つたこと自体無いから。」

高史

「そりゃええば。」

作者

「では、Episode Redまでの… Episode Blackもお楽しみこーー！」

高史？浩司

「死ぬ気で見ろよ。」

補足

リュウトウオーの獣王

セイバー ユニコーン

一角馬の獣王。

頭部の角が剣になつており、突進して敵を斬る。

ユニコーンスライダーに変形し、ゴッドリュウケンドーのブリザードボードやリュウソウオーのフリーズボードと同様にリュウトウオーを乗せて「三位一体双龍演舞」を繰り出す。

また、変形することなくリュウトウオーを背中に乗せると「三位一体幻龍一閃」を繰り出すことが可能。

作者

「トリロジー第三弾！」

「これでラストだ！…」

春花

「最後は、黒の魔弾戦士だよ！」

作者

「では早速、変身者、カモン！…」

春花

「いっくよー！…」

春花

「みんなはもうわかつてたよねー！」

作者

「んじゃ春日、よひ。」

春日

「オッケイ！…」

セイリュウジヨウウ！…」

春日の右手首のブレスレットが光り、杖型の魔弾龍、セイリュウジヨウになつた。

春日

「リュウジヨウキー、発動！」

セイリュウジヨウ

「チーンジ、リュウジヨウオー。」

春日

「聖龍変身！」

春日は、リュウジンオーと同じ黒の魔弾戦士、リュウジヨウウォーに変身した。

リュウジヨウウォー

「聖龍の、黒き魔弾術士…リュウジヨウウォー…ライジン…！」

春花

「それじゃ、私たちも行こうか、ザンリュウジン。」

ザンリュウジン

「おうよ…

派手に行くぜ…！」

春花

「ザンリュウジン…リュウジンキー、発動！」

ザンリュウジン

「チョンジ、リュウジンオー。」

春花

「斬龍変身！」

春花は、これもおなじみ、リュウジンオーに変身した。

リュウジンオー

「斬龍の、黒き魔弾騎士…リュウジンオー…ライジン…！」

リュウジヨウウォー

「それじゃあ行くよ、春花！」

リュウジンオー

「本気で行くからね、春日…！」

リュウジョウホー

「行ぐよセイリュウジヨウ! ハルバードアーティル」

セイリュウジヨウの裏側に折り置まれていた短刀が飛び出し、セイリュウジヨウはハルバードモードとなつた。対するリュウジンオーも、ザンリュウジン アックスマードを構える。

リニウムホリ?リニウムホリ

「ああああああああああああああああ」――「！」

セイリュウジヨウウとサンリュウウジンがぶつかり合う。リュウジンオーはザンリュウジンの両端の斧で斬りかかり、リュウジヨウオーはセイリュウジヨウウの柄でそれを防ぎ、隙をみて斬りかかる。

リュウジヨウオー

「…」
「…少しき
シ…」
「…から…多
い…カジン…サ
ンリ…箇所…で
きる…攻撃…」

「まだまだ行くよー」

リュウジンオリは攻撃の手を緩めず、ザシリュウジンを次々と振る

対するリュウジョウオーも、全てセイリュウジョウで防御する。

リュウジンオー

「守ってるだけじゃ、勝てないか!」

「そんな」と言われても……？

ザンリュウジンが振り降ろされ、セイリュウジョウに防がれる。しかし、ザンリュウジンの斧はリュウジョウウォーの顔ギリギリのところまで迫っていた。

リュウジョウウォー

「やつぱり強いよ、春花は…
でも…私も、負けられない…！」

リュウジョウウォーはザンリュウジンを押し飛ばし、斬りつけた。

リュウジンオー

「きやあっ！？
喰らつちゃつたか…でも、まだまだ！
アーチェリー モード！」

リュウジンオーは、ザンリュウジンをアーチェリー モードに変形させ、魔力矢を放った。

リュウジョウウォーはセイリュウジョウウで斬り落とすが、リュウジンオーは次々と矢を放つ。

リュウジョウウォー

「キリがない…なら！
フィールドキー、発動！」
セイリュウジョウウ
「セイントフィールド。」
リュウジョウウォー
「セイントフィールド、展開！」

リュウジョウウォーがセイリュウジョウウで地面を突くと、リュウジョ

ウォーの足元に魔法陣が現れ、その周囲から光の壁が伸びた。

リュウジンオー

「まさか…バリア…！？
なら、破る…！」

リュウジンオーは再び矢を放つ。

リュウジヨウウォー

「セイントフィールド・リフレクトー！」

リュウジヨウウォーがそう言つと、光の壁に直撃した矢は、瞬時に逆方向を向いて飛んでいった。

それはすなわち…

リュウジンオー

「きやあっ…？」

リュウジンオーのいる方向だつた。

リュウジンオーはギリギリでそれを避け、リュウジヨウウォーを見る。

リュウジンオー

「まさか跳ね返すなんて…！」

リュウジヨウウォー

「今だ…！」

シユーターキー、発動！

セイリュウジヨウウ

「ドラゴンシューター。」

リュウジヨウウォーの周囲に、黒い魔力弾が数個出現した。

リュウジンオー

「あれって…まさか…！？」

リュウジヨウオー

「『リバーン…シコーダー！…』

リュウジヨウオーがリュウジンオーに向けてセイリュウジヨウウを振ると、魔力弾は一斉にリュウジンオーに向かっていった。

リュウジンオー

「やつぱり…！」

なのはちゃんと同じタイプの射撃魔法…！」

リュウジンオーはすかさずザンリュウジンをアックスマードに変形させ、魔力弾を全て斬り落とした。

リュウジヨウオー

「やつぱり、一筋縄じゃ行かないね…！」

リュウジンオー

「いりなつたら…一気に決める…

ファイナルキー、発動！」

ザンリュウジン

「ファイナルクラッシュ…！」

リュウジンオー

「ザンリュウジン…乱撃…！」

すさまじい連撃が、リュウジヨウオーに襲いかかる。

リュウジヨウオー

「セイントファイールド！ブロッカ！フルドライブ…！」

リュウジヨウオーは、セイントフィールドの強度を限界まで高めて対抗する。

そして、ザンリュウジン乱撃が、セイントフィールドに衝突した。その時、ガラスが砕け散るような音がその場に響いた。

リュウジンオー

「これなら……！」

しかし、セイントフィールドは破られたものの、乱撃はリュウジヨウオーには届いていなかつた。

リュウジヨウオー

「ふう……間一髪。」

リュウジンオー

「そんな……！？」「

リュウジヨウオー

「今度は私の番！

バインドキー、発動！」

セイリュウジヨウウ

「ドライコンバインド。」

リュウジヨウオーがセイリュウジヨウウで地面を突くと、リュウジンオーの足下に魔法陣が現れ、そこから一體の黒い光の龍が現れ、リュウジンオーに巻き付き、拘束した。

リュウジンオー

「しまつた……！」

リュウジヨウオー

「これで確実に当たられる……！」

ファイナルキー、発動！」

セイリュウジョウウ

「ファイナルクラッシュ。」

リュウジョウオーがセイリュウジョウウを掲げると、セイリュウジョウウから炎のような魔力光が溢れ、セイリュウジョウウを一回振り回して再び高くあげると、その魔力光はリュウジョウオーの上空に飛翔し、龍の姿をした魔力弾になつた。

リュウジョウオー

「墜ちろ…！ 龍星弾…！」

リュウジョウオーがセイリュウジョウウを振り降ろすと、龍型の魔力弾は吠えながらリュウジンオーに突っ込んだ。

リュウジンオー

「きやあああああああああつ！」

煙が晴れると、そこには変身が解けた春花が倒れていた。

リュウジョウオー

「春花！ 大丈夫！ ？」

春花

「うん、何とか…」

リュウジョウオー

「待つてて…！」

ヒーリングキー、発動！」

セイリュウジョウウ

「ヒーリング。」

リュウジョウウォーが春花にセイリュウジョウウをかざすと、セイリュウジョウから光が春花に降り注ぎ、春花のダメージが治った。

リュウジョウウォー

「これでよし！」

春花

「ありがとう、春日。」

リュウジョウウォー

「どういたしまして」

作者

「はい、お疲れー」

春日（変身解いた）

「お疲れ様でしたーー！」

春花

「春日、強かつたね！」

春日

「えつへん！」

作者

「さてと、これでトリロジーはコンプリートだ！」

春日

「作者オリジナル側の全勝だね！」

春花

「いや、剣汰と雷斗は引き分けだよ。」

春日

「あ、そうだったね。」

作者

「とにかく、魔弾戦士トリロジーはこれにて終了です！」

「ありがとうございました！」

春花？春日

「「おつがと「ハ」がこもった…」」

補足

本文では披露しなかつたが、リュウジョウオーには「龍星斬」という、龍星弾をそのままセイリュウジョウウ ハルバードモードに纏わせて敵を斬る、もう一つの必殺技がある。

リュウジョウオーの獣王

セイントレイダー

蝙蝠の獣王。

ナイトサバイブのダークレイダーに酷似しているが、色は黒。

リュウジョウオーと合体してセイントウイングリュウジョウオーとなり、自らに龍星弾を纏つて敵に突貫する「三位一体龍星斬」を繰り出す。

また、セイントバイクにも変形し、同様に龍星弾を纏つて突貫する「三位一体龍星弾」を繰り出す。

予告！！

作者

「さて、懲りずにまた番外編やります。」

劍汎？高史

ライダーメモリ大実践会特別番外編、第一弾！ その名も…

ウルトラマン×ウルトラマンブレード&モード・ソード 小説大戦 ELEVEN

番外編第一弾は…ウルトラマン！

過去や雑談劇場で名前のみ出ていた、あのウルトラマンブレードが、ついに登場！！

また、他作者作品への出演まで果たしたウルトラマンソードも、新フォームを引っさげ参戦！

高史

「さて、投稿はいつになる」とやうに

劍汰

卷之三

作者

一
氣にしな
い。

「？」
「？」
「？」
「？」

Г. Г. Г. Г. Г.

期待！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9998p/>

ライダーメモリ大実践会特別番外編 魔弾戦士トリロジー
2011年1月11日20時39分発行